

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長	原 浩二	担当者名	川原 栄治
-----	------------	----	------	------	-------

取組事例名 『「医療従事者に感謝を」プロジェクト』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	----------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

問題意識を持って，主体的・積極的に考え，社会参画する力

取組のねらい

医療従事者の苦しい状況を共感的に理解する。医療従事者に対する感謝の気持ちを伝える活動を通して相手を意識して伝えることを体験する。地域の小中学生と共に取り組む中で，社会参画する力を高める。

取組の具体的内容

- 1 生徒会を中心に活動に参加する生徒を募る。
- 2 医療従事者の置かれている状況を調べる。どんなことを負担に感じているかを想像し，意見を交流する。
- 3 感謝の気持ちを伝えるためには何をどのように行えばよいかを考え，意見を交流する。
- 4 役割ごとにリーダーを中心として作業を進める。
- 5 小中学校との交流，パネル設置，メディアからの取材を経て，取組の前と後での考え方の変化について意見を交流する。

取組の創意工夫

主体的に参加する雰囲気をつくる。
自分と異なる意見から学ぶ大切さを伝える。
正しく「伝える」ためには「受け取る」側を意識するようアドバイスする。
責任の所在を明確化する。
言葉によって表現することで全ての活動を振り返らせ，お互いを肯定的に評価する。



取組の成果と課題

新型コロナウイルスの影響で多くの行事を例年通りに実施できなかったこともあり，予想していた以上に積極的に取り組む生徒たちの姿が見られた。意見交換を通して，医療従事者の心情を深く想像することができ，また，異なる意見を肯定的に聞くことの大切さを学んだと思われる。全校生徒，教職員，地元の小学生，中学生へと取組の輪を拡大し，折り鶴を作るという具体的な作業を共同で行うことで，医療従事者に対する感謝の気持ちを拡大することができた。以下に，生徒の変容の一端が表れていると思われる，1学期と取組を経た2学期に実施した人権に関するアンケート結果の一部を紹介する。

質問項目	7月	12月
人それぞれ，考えや感じ方に違いがあってよいと思う。	97.9%	99.3%
自分にはよいところがあると思う。	73.0%	75.0%
友だちは，努力したことを認めてくれる。	94.3%	97.9%
自分の役割を責任を持って果たし，学級のみんなや部活動のメンバーと協力し合っている。	92.9%	95.0%